

一国主義を越える学術研究 学問の海外交流

学術研究の国際化が叫ばれて長年月が経つが、一国の枠組みを越えて研究する「越境」の流れは、研究の内側のみならず、その外側、すなわち政治、経済、文化など、社会の変化によって否応なく進展しつつある。近代の終焉が語られる中、主として一国の枠内で続けられてきた学術研究は、現在、国境を越えて世界共通の課題をもつ学問へと向かいつつある。

今回のシンポジウムでは、大学間や研究所間の提携が強固になりつつある今日の学術研究の動向と実態を、狭く閉ざされたナショナルな学問研究を越えるという意味で、「一国主義を越える」という観点から、それぞれの学問領域に即して紹介する。大学や研究所が果たしてきたこれまでの実績や今後果たすべき課題について討議し、古くて新しいテーマである「学問の海外交流」について、今後予想される困難な状況と、生まれつつある豊かな展望などについて改めて考えてみたい。

プログラム

司会 中谷伸生（東西学術研究所長、文学部教授）

13:20～13:30 開会挨拶 高瀬 武典（経済・政治研究所長、社会学部教授）

基調講演

13:30～14:30 「日本食文化の海外交流」

熊倉功夫

公立大学法人 静岡文化芸術大学 学長
一般社団法人 和食文化国民会議 会長

1943年東京生まれ。東京教育大学卒業。文学博士。筑波大学教授、国立民族学博物館教授、林原美術館館長などを歴任。現在、静岡文化芸術大学学長。一般社団法人 和食文化国民会議 会長。著書に『日本料理の歴史』、『茶の湯といけばなの歴史 日本の生活文化』、『後水尾天皇』、『文化としてのマナー』、『現代語訳 南方録』、『茶の湯日和 うんちくに遊ぶ』等。



講演

14:40～15:20 「日中の学術的背景における書学研究
－王羲之研究を中心として」

祁小春（中国・広州美術学院教授）

15:20～16:00 「法学の観点から見た日独交流」

メンクハウス・ハインリッヒ

（明治大学法学部・大学院法学研究科教授）

16:00～16:40 「幸福と生活の質：仏教の視点から」

サウワラク・キティプラパス

（タイ・ランシット大学・経済学部 研究センター所長）

16:50～18:00 総合討論

18:00～18:05 閉会挨拶 岡本哲和（法学研究所長、政策創造学部教授）

5 / 2 2 (金)

13:20 - 18:05

関西大学千里山キャンパス

尚文館 1階

マルチメディアAV大教室

ACCESS



尚文館

至北千里

阪急関大前

阪急千里線にて関大前駅で下車

講演言語：日本語・英語
※通訳あり



お問い合わせ先

関西大学
研究所事務グループ

〒564-8680 吹田市山手町3-3-35

TEL:06-6368-0653

FAX:06-6339-7721

E-mail : touzaiken@ml.kandai.jp